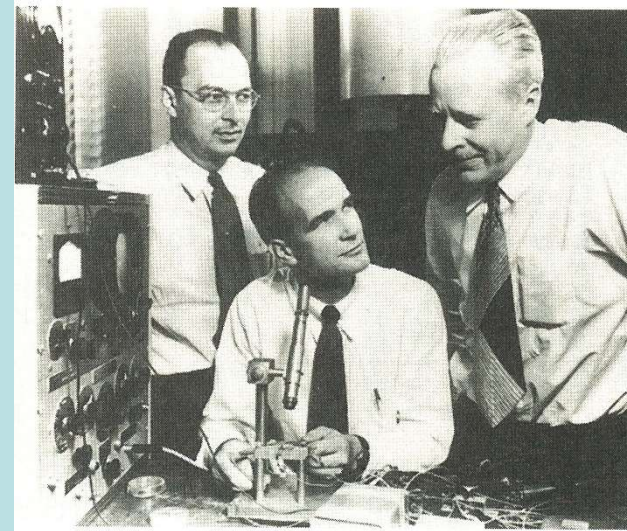
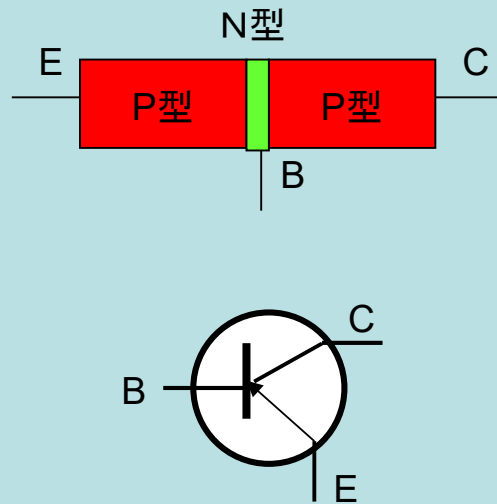


接合型トランジスタの発明(1948)

点接触型トランジスタは壊れやすく、鉱石検波器同様に動作が不安定であった。そこでショックレーは1948年に半導体(P型、N型)同士を接合した接合型トランジスタを発明した。

1956年、ショックレー、バーディーン、ブラッティンはPN接合の半導体理論の確立とトランジスタの発明により、ノーベル賞を受賞。



バーディーン、ショックレー、ブラッテン